



官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム～
地域人材コース「いわて協創グローバル人材育成プログラム」

平成 29 年度活動報告書

目 次

いわて協創グローバル人材育成プログラムについて・・・・・・・・・・	1
平成 29 年度年間取組状況・・・・・・・・・・	2
平成 29 年度派遣学生一覧・・・・・・・・・・	3
派遣学生報告書 岩佐世那・・・・・・・・・・	4
派遣学生報告書 田中 誓・・・・・・・・・・	6
派遣学生報告書 中田秀樹・・・・・・・・・・	8
派遣学生報告書 檜館茉奈・・・・・・・・・・	10
派遣学生報告書 山口大河・・・・・・・・・・	12
派遣学生報告書 中村公子・・・・・・・・・・	14
派遣学生報告書 三宅孝平・・・・・・・・・・	16
ふるさと発見大交流会への協議会ブースの出展・・・・・・・・・・	18

いわて協創グローバル人材育成プログラムについて

1 目的

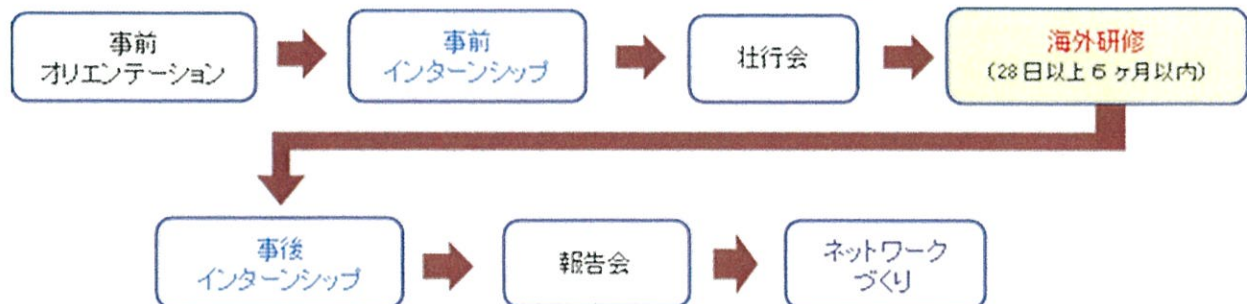
地域のグローバル化を促進するため、学生の海外留学や地元でのインターンシップ等を行うことにより、地域の活性化に貢献する人材を育成することを目的に、文部科学省「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム～地域人材コース」を活用し、県内学生の留学を支援。

2 プログラム

- A. 県産品販路開拓人材育成プログラム
- B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム
- C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム
- D. 持続可能型地域づくり産業人材育成プログラム
- E. 多様性人材育成プログラム

3 プログラム構成

参加学生は留学期間前に事前オリエンテーションに参加し、県内企業などでの事前インターンシップを行った後、28日以上6か月以内の海外留学・研修を行う。帰国後は、研修成果を地域に還元することを目的に、地元企業での帰国後のインターンシップを実施。（インターンシップは事前・事後合わせて20日程度）



4 平成29年度実施スケジュール

平成29年5月12日(金)

平成29年5月15日(月)～18日(木)

平成29年5月25日(木)、30日(火)

平成29年6月25日(日)

平成29年8月9日(水)

申請書類提出期限

第一次審査（書類審査）

第二次審査（面接審査）

事前オリエンテーション

地元壮行会

（派遣学生・事務局を含め、77名が参加）

平成 29 年度年間取組状況

	実施内容
4 月	4月 12 日(水) 学生募集説明会(岩手県立大学) 4月 13 日(木) 学生募集説明会(岩手大学)
5 月	5月 8 日(月) 第7期募集締切 5月 12 日(金) 第 1 回運営委員会 5月 15 日(月)～18 日(木) 第一次書面審査 5月 25 日(木) 第二次面接審査 5月 30 日(火) 第二次面接審査(再審査) ※体調不良者1名への対応
6 月	6月 15 日(木) 事務局打合せ(県・県国際交流協会・岩手大学) 6月 19 日(月) 新任事務担当者研修(文部科学省) 6月 20 日(火) 事前オリエンテーション打合せ(岩手大学・事務局) 6月 25 日(日) 事前オリエンテーション
7 月	7月 1 日(土) 全国事後研修見学(ナガセ西新宿ビル) 7月 30 日(日) 全国壮行会
8 月	8月 9 日(水) 地域壮行会、岩手県知事との懇談 8月 24 日(木) プロジェクトミーティング①(事務局・各大学等) 8月 28 日(月)～9月 6 日(水) 企業訪問
9 月	
10 月	10 月 23 日(月) 第2回運営委員会
11 月	11 月 8 日(水) 会員企業訪問(インターンシップ受入状況等確認) 11 月 17 日(金) 岩手県留学生交流推進協議会(事業概要説明、協力依頼) 11 月 19 日(日) ふるさといわて大交流会(岩手大学)
12 月	12 月 21 日(木) プロジェクトミーティング②(事務局・各大学等)
1 月	1月 9 日(火)～15 日(月) 計画変更に係る再審査(書面審査) 1月 10 日(水) 第9期募集開始 1月 12 日(金) 企業訪問 1月 17 日(水)、18 日(木) 学生募集説明会(岩手大学) 1月 19 日(金) 学生募集説明会(岩手県立大学) 1月 31 日(水) 岩手県留学生就職支援協議会(事業概要説明、協力依頼)
2 月	2月 8 日(木) 岩手大学訪問(次年度事業に係る打合せ、学生募集状況確認) 2月 12 日(月) グローバルキャリアフェア in 岩手(ホテルメトロポリタン盛岡)
3 月	3月 16 日(金) プロジェクトミーティング③(企業・大学・事務局)

平成29年度「トビタテ!留学JAPAN 地域人材コース」派遣学生一覧

1	いわさ せいな 岩佐 世那		岩手大学教育学部芸術文化課程		3年次
	申請時 留 学 テーマ	カナダの駅舎から受けるインスピレーションを活用し、魅力的な「玄関」としての駅舎を構築することで、列車を利用したいわて観光を浸透させる			留学先 カナダ
	留 学 期 間	2017年8月18日～9月20日(1か月)	インター シ ッ プ	事前:IGRいわて銀河鉄道(株)、(株)サラダファーム 事後:IGRいわて銀河鉄道(株)、(株)サラダファーム	
2	たなか せい 田中 誓		岩手大学農学部農学生命課程		3年次
	申請時 留 学 テーマ	世界へ羽ばたけ！ Japanese SAKE 南部美人			留学先 アメリカ
	留 学 期 間	2017年8月28日～10月23日(2か月)	インター シ ッ プ	事前:(株)南部美人、酒米農家、Sake Discoveries, 事後:(株)南部美人、酒米農家	
3	なかた ひでき 中田 秀樹		岩手大学人文社会科学部地域政策過程		2年次
	申請時 留 学 テーマ	「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を ー欧州の先行事例に学ぶー			留学先 ドイツ、スイス
	留 学 期 間	2017年10月7日～2018年2月28日(5か月)	インター シ ッ プ	事前:岩手県中小企業家同友会 事後:サステナジー(株)岩手営業所	
4	なげだ まな 檜館 茉奈		岩手大学農学部農学生命課程		3年次
	申請時 留 学 テーマ	ロハス的な理想郷を目指して 地域と考える、豊かなまちづくり			留学先 イギリス、ドイツ、スイス
	留 学 期 間	2017年8月18日～10月20日(2か月)	インター シ ッ プ	事前:岩手県中小企業家同友会 事後:岩手県中小企業家同友会	
5	やまぐち たいが 山口 大河		岩手大学人文社会科学部人間文化課程		1年次
	申請時 留 学 テーマ	世界の被災地から学ぶ多文化社会			留学先 インドネシア
	留 学 期 間	2018年2月16日～3月25日(1か月)	インター シ ッ プ	事前:岩手県(総合防災室)、遠野まごころネット 事後:遠野まごころネット	
6	なかむら きみこ 中村 公子		岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科		2年次
	申請時 留 学 テーマ	“被災地いわて”から“観光の街いわて”へ！ 私たちが住みたくなる街は、私たちの手で作る。			留学先 台湾
	留 学 期 間	2017年9月1日～2018年2月17日(6か月)	インター シ ッ プ	事前:(株)岩手ホテルアンドリゾート 事後:北上観光コンベンション協会	
7	みやけ こうへい 三宅 孝平		一関工業高等専門学校物質化学工学科		5年次
	申請時 留 学 テーマ	バイオマス分解因子と基質の相互作用観察 (等温滴定型熱量測定)			留学先 ノルウェー
	留 学 期 間	2017年8月18日～9月15日(1か月)	インター シ ッ プ	事前:(公財)岩手県南技術研究センター 事後:岩手県農業研究センター	

岩手大学教育学部芸術文化課程

4年 岩佐 世那

留学先： カナダ／ケベック州／モントリオール／
BLI モントリオール校

カナダ／ブリティッシュコロンビア州／
ビクトリア

留学期間：2017年 8月～9月（1カ月）



① 留学テーマ

「公共交通機関を利用したいわて観光のメジャー化」

公共交通機関を利用した観光の提案・メジャー化を図り、岩手観光のインバウンド拡大につなげたいと考えました。そのため、メトロをはじめ公共交通機関を主な交通手段としながら観光客を集客し続けるモントリオールと、バスツアーを中心に主要イベント等で集客をしているビクトリアへ行きました。

② 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

●IGR いわて銀河鉄道株式会社様

〈事前〉

ツアー同行、駅舎見学…生活路線として機能しながら、同時に観光客受け入れのためになされている工夫や活動を教わった。

〈事後〉

① 盛岡市職員民間体験研修への参加…ツアー企画の作成と、効果的な宣伝方法について伺った。

② 銀河鉄道まつりの受付業務…生活路線として利用される鉄道ならではのイベントを考えることが出来た。

●農業生産法人株式会社サラダファーム様

〈事前〉

売店接客業務…地域の玄関口となるような観光地づくりのための活動を見学させていただいた。一度の接客でその土地のイメージまで決まってしまう観光地ならではの接客の重要性を感じた。

〈事後〉

イベント補助業務…広告デザインの上で「企業らしさ」を追及していることを学んだ。また、岩手の観光地における地元民は、重要な客層であり且つそれぞれが広告塔になりうる存在だと考えた。

県内における観光地とその交通手段のそれぞれに関して、問題点と工夫点をお伺いできました。2社それぞれのご担当者様からもご意見を頂き、ブラッシュアップする中で、観光における広告の重要性について考え直すことができました。今後はそれを基に、卒業制作として岩手観

光に関するパンフレットと動画を作成する予定です。

③留学先での取り組み内容及び成果

モントリオールでは①語学研修②駅舎・ツアー見学を通し、「地域性に合わせた仕掛け」を作ることとを学びました。

ビクトリアでは、盛岡・ビクトリア友好協会会長のビルさんにご協力いただき①ツアリズム会社訪問②ツーリストコンサルタントへのインタビューを行いました。そこで、観光客の客足を途切れさせない工夫として「一人一人に合わせた次世代の広告」についてお話をお伺いしました。

④本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

トビタテを利用したことで、大変多くの方と繋がることができました。トビタテ自体は個人での計画・渡航プログラムですが、渡航中、渡航前後で多くの方に手助けして頂き達成できたと感じています。今回の経験でできた繋がりを大切に、今後も様々な活動に積極的に取り組んでいきたいです。

⑤留学費用について

- ・総費用：55万円

(内訳 渡航費24万円、学費10万円、宿舍費13万円、食費2万円、ビザ・保険料1万円、雑費他5万円)

- ・費用負担 自己負担9万円、留学奨学金46万円

- ・使ったお金の割合：現金20%、クレジットカード(三井住友デビュープラス/ライフカード)80%
カナダはカード社会ということもあり、ほとんどクレジットカードを利用しました。

ただし、カード利用不可能な一部店舗でのみ現金を利用しました。

⑥語学力について

- ・現地で使用した言語：英語

- ・語学レベルUP：リスニングとスピーキングを中心に、実践的コミュニケーションを体験することができました。

- ・適正レベル：TOEIC550～、英検2級相当があれば、日常生活で困ることはありません。より高い英語力があれば、実地調査やボランティア・インターンなどを充実させる助けになると思います。



「世界にはばたけ！ Japanese SAKE」

岩手大学農学部農学生命課程 田中 誓



留学先： アメリカ／ボストン・ニューヨーク

機関名： TALK International・サケディスカバリーズ

留学期間： 2017年8月～10月 （8週間）

●留学の内容

・・・自分の留学テーマはアメリカの地で日本酒・日本食・文化を広めることでした。その前段階としてボストンの語学学校で3週間英語研修を行いました。英語で日本酒について説明することが求められるので、会話に重きを置いた学校を選びました。その後アーカンソー州で新たな酒蔵を造ろうとしている方のもとで1週間滞在し、アメリカの日本酒ビジネスやライスフィールドの視察を行いました。次にニューヨークに移り、サケディスカバリーズという日本酒 PR 会社のインターンとして4週間活動しました。日本食レストランでのイベントで海外のお客様にお酒の説明やサーブを行いました。また現地の日本食事情や日本酒の市場を知るために、多くのレストランやリカーショップ、さらには現地で日本酒を生産している酒蔵を視察しました。

●留学の動機

・・・地域と密着して地域と海外をつなぐということが自分の目標であり、そんなグローバル人材を目指すうえで第一歩になると考えたからです。また自分の興味がある“農業と日本酒”など、自らが留学計画をコーディネートできるという点にも惹かれました。内容については、以前カフェでアルバイトをしていた時のコーヒーについてお客様に伝えるという経験から、日本独自のコメからできる誇るべき日本酒を世界の人々に伝えたいという思いから至りました。

●留学の成果

・・・現地では自分にとって運のいいことにインターン先の方以外はほとんど日本人と会いませんでした。そのため毎日英語で生活をし、自分の活動について伝え、調査をしました。これにより以前より積極的かつ踏み込んでコミュニケーションができるようになったと感じます。そのコミュニケーションの中で知ったのは、世界中の多くの方が日本酒に興味をもち、待っているということです。興味はあるけどどこでどう飲めばいいかわからないという人に手を差し伸べる活動をもっとしたいと思うきっかけになりました。

●スペシャルエピソード

・・・ホームステイ先で日本酒&おでん会を開いて振舞ったところ、一口でみんなそろって苦い顔をして食べてもらえなかったこと。

●これから留学したい人へアドバイス

・・・海外でもそうですが、日本にいるうちから多くの人とつながりを持っておくことが大事だと思います。思わぬところでつながりが生まれて現地の酒蔵や日本酒会にスタッフとして招待していただくなど+αの活動を多くすることができました。

●留学費用について

①総費用：91万円

(内訳 渡航費20万円、現地移動費7万円、国内移動費4万円、学費26万円、宿舍費17.5万円、食費9万円、保険料1万円、生活費3万円、お土産代他3万円)

②費用負担 自己負担28万円、留学奨学金約63万円

③使ったお金の割合：現金30%、クレジットカード(ビザ) 70%

●留学先宿舎について

・形態：ホームステイ、シェアハウス

・家賃額：ホームステイ>月額 12万円(食費含む)

シェアハウス>月額 11万円(食費含まない)

・参考情報：ホームステイ>部屋にベッドと机があり家の設備は自由に使えました。留学生は自分一人でした。

シェアハウス>生活に使う設備や道具は揃えられていました。シーツ類のみ購入し、中古布団は無料だったのでそちらを利用しました。改装したてで駅から近く便利な場所でした。

●語学力について

・現地で使用した言語：英語

・語学レベル UP：留学前より一歩進んだ英語コミュニケーションができるようになったと感じます。

・適正レベル：生活の中の英会話ができる。

●ネット環境及びその他の参考情報

・インターネットで頻繁に連絡を取ることが予想されたのでポケットWiFiをレンタル(2.5万円/月)しました。また資料作成のためにPCを持参しましたが、ホームステイ先やシェアハウスではWiFiが完備されていたので自宅で使用できました。

●留学中の主なスケジュール(ボストン)

曜日/日程	午前	午後
月曜/1日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	友達と市内観光
火曜/2日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	リカーショップ視察
水曜/3日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	日本食レストラン視察
木曜/4日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	友達と市内観光
金曜/5日目	英語の授業、クラスの友達とランチ	友達の家で日本酒&バーベキュー会
土曜/6日目	留学レポート作成	家族で食事
日曜/7日目	友達とレンタカーで観光	日本食レストラン視察

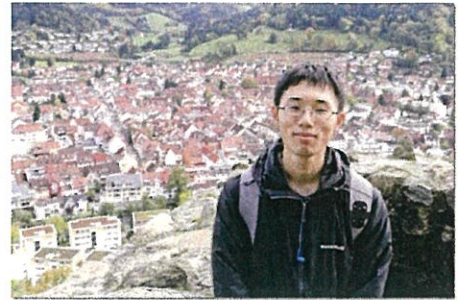


「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を

——欧州の先進事例に学ぶ——

○基本情報

留学生氏名		中田 秀樹
所属大学		岩手大学
留学先		ドイツ・スイス
留学の期間		2017 年 10 月～2018 年 2 月



○留学の目的

現在、岩手県を含む日本で利用されているエネルギーの多くは、化石燃料（石油、石炭、天然ガス等）由来のエネルギーです。これらのエネルギー資源は限りあるものであり、近い将来には再生可能エネルギー（再エネ）への転換が必要となると考えられます。

再エネとしては主に太陽光、風力、地熱、バイオマスなどがありますが、岩手県はこれらのエネルギー資源が豊富です。また再エネ関連産業は地域特性による影響が大きいという特性から、その地域の生活に根差した地域密着型の産業となります。これらの資源を活用し、岩手県が日本における再エネ利用のモデル地域となることができれば、地域経済の活性化にもつながると考えられます。

そして、このような再エネによる生活の転換を今まさに推し進めている先進事例が、欧州・ドイツにあります。私はこのドイツの先行事例について学ぶことが、これから先岩手発で再エネの浸透を進めるために必要なことだと考え、本プログラムに応募いたしました。

○事前・事後インターンシップでの取組

事前インターンシップ		岩手県中小企業家同友会（事務局、葛巻町等）
事後インターンシップ		サステナジー株式会社

事前インターンシップは、岩手県中小企業家同友会様に受入をして頂き、葛巻町での研修を主に行いました。エネルギーに関する内容のほか、関連する産業や事例の知識も得ることができ、欧州視察の予習として大変参考になりました。

事後では、紫波町・オガールエリアで熱供給事業などを行っているサステナジー株式会社様にて事後インターンシップを行いました。地理情報システムも活用しつつ、国内の電力市場や発電事業の適地について調査をする中で、情報分析に必要な知識やツールを学ぶことができました。

○留学先での取組

1. エネルギーシフト欧州視察

岩手県中小企業家同友会様が主催の欧州視察に同行させて頂き、ドイツやスイスの先進事例を視察することができました。再エネ事業の見学だけでなく、省エネに関する取り組み、法制度等の違い、そこに至るまでの背景の差異などにも踏み込んだ内容を学ぶことができました。



2.語学学校と並行しての調査活動

語学学校で生活に必要なドイツ語を学びつつ、並行して地域のエネルギー政策や欧州視察で学んだ内容に関連する情報を調査しました。ここで得た経験や情報は、その後の研修や調査の際に役立てることができました。

3.海外でのインターンシップ先である Arch Joint Vision に所属しての研修・調査活動

インターンシップ先からの助言を受けつつ、**地域の事例見学、環境 NPO や環境教育などドイツの創エネルギーに関わる団体での研修、エネルギー部門に関する情報収集**などを行いました。ドイツで関心が高まっている環境問題、地域資源の活用などに関する情報・資料も得ることができましたので、今後の「創エネ」浸透に向けた取り組みの中で役立てていこうと考えています。



左・フライブルクで行われた技術展示会

中・ボーデン湖で行われた環境 NPO 主催のイベント

右・ベルリンのエネルギーミュージアムの展示

○語学力について

最初のころは拙い英語とスマートフォンの翻訳アプリに頼りきりでした。しかし語学学校に通う他、自学自習していく中で鍛えられ、日常生活や観光程度なら問題ないレベルで会話できるようになりました。今後、検定を受験して自分のレベルを確かめるとともに、継続的に英語・ドイツ語に触れて能力を維持・向上させていこうと思います。

○留学費用について

総計	約 125 万円
内訳	
航空券	約 15 万円
研修参加費	約 40 万円
授業料	約 15 万円
宿泊費	約 40 万円
食費交通費等	約 15 万円

他にかった費用としては、

○**岩手大学の授業料**（休学しなかったため）

○物品の準備（スーツケースを買い足しました）

○日本の住居の家賃

などもありました。

○本プログラムに参加した感想

大学に入学した当初は、留学という選択肢は考えていませんでした。しかし大学内外で様々な経験を積み、その上で**目標達成に向けた道のりを考える中で留学の必要性を感じ**、本プログラムに応募致しました。その結果、この一年（留学前後の研修なども含め）非常に貴重な経験をさせて頂きました。**この経験は、目標を実現できる自分になるための大きな一歩だ**と感じています。

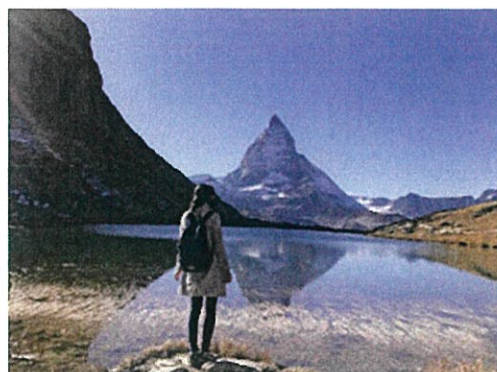
考えに共感して頂き、支援して下さいった企業の皆様、事務局や大学の教員・職員の方々には感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。留学の経験を踏まえ、目標実現のためこれからも全力を尽くして参ります。宜しくお願い致します。

岩手大学 農学部 檜館茉奈

留学先：イギリス・ドイツ・スイス

留学期間：2017年8月18日～10月16日

(2か月)



① テーマ くらしを変える

ー地域と考える、新たな理想郷ー

② 事前事後インターンシップでの取組内容及び成果

事前インターンシップでは、岩手県中小企業家同友会様(以下同友会様)のアレンジの元、再生可能エネルギーを取り入れた企業3社(東日本機電開発(株)様・信幸プロテック株式会社様・有限会社いわてにつかコミュニティ企画様)の取り組みを伺い、岩手県内企業の取り組み事例を学ぶインターンシップを行いました。また、3社の経営者の皆さまから、岩手で働く意義や意志をインタビューしたり、高校生の就職活動対策イベントに参加させていただき、県内の高校生の皆さんと人生設計を行い、職業観や今後のビジョンについて自身も考察を深め、留学の方向性を明確化しました。本インターンシップから、高校生の考える人生ビジョンやこれから社会を担っていく高校生の考えに触れることで日本人のくらしや社会問題の原因を考察することができました。また、再生可能エネルギーの普及程度・具体的な普及のされ方を知り、視察先での取り組みを比較するための基礎を形成することができました。

事後インターンシップでは、視察先農家さんの取り組みに感銘を受け、改めて農業に強い関心を持ったため、視察に同行された3軒の農家さん(有限会社猿子園芸様、中洞牧場様、馬場園芸様)で経営者の皆様にインタビュー・作業のお手伝いをさせていただきました。日本の農業の現状(生産性、市場状況など)を見学・伺うことができたと同時に、視察内容を経営者の皆さまと振り返ることで新たな視点や知識・考え方を会得できました。また、事前事後インターンシップなど、岩手県の方々の温かさに触れたことで、岩手県内での就職を真剣に考えるきっかけになりました。

③ 留学先での取組内容及び成果

まず、1つ目の留学先であったイギリスではドイツの林業大学研修、同友会様の欧州視察の基礎を作るため1か月間語学学校に通学し、語学力向上に努めました。その結果、英語力は日常会話ができるレベルまで改善することができました。さらに、語学学校通学中、トビタテ!留学JAPANの活動であるアンバサダーとしての活動(日本のお菓子を語学学校の学生に試食していただきました)を行い、海外の同世代の人々にとって日本文化がどのようなものに映っているのか、検証してまいりました。

2か国目であるドイツでは、ロッテンブルグ林業大学の研修に参加し、英語による座学の授業、フィールドワークを受けました。研修では、再生可能エネルギーのひとつである木質バイオマスの基礎や、最新の活用方法、林業の詳細な施業法について学び、日本の林業との

考え方・施業技術・環境の違いを認識しました。

林業大学研修後、再びドイツ・ハイデルベルクにて語学学校に通学し、ドイツの街並みの形成や文化、英語力の確立を行いました。

最後に、上記の学びの総まとめとなる同友会様の欧州視察(ドイツ・スイス)に同行しました。ドイツでは、黒い森の文化的背景や林業で行われる作業の詳細な説明から始まり、歴史あるオルガン工房見学、農家さんによる再生可能エネルギーの取り組み事例、省エネ建築と地域熱供給、団地の省エネ改修など、再生可能エネルギーと何かを組み合わせ、新たな事業を生み出す事例を多く学びました。

スイスでは、造園会社の省エネ改修・再生可能エネルギーの取り組み、農家による6次産業と地域熱供給の取り組みなど、農業中心に再生可能エネルギーをどのように経済に取り込み活用していくかという事例を見てまいりました。

これらの学びから、先を見据え、主体的に様々な社会問題に取り組む姿勢をもつことが重要であることが分かりました。タイトルにある、「くらしを変える。」ですが、変えるのではなくまず自身が変わっていく、といった自分事として捉える姿勢をもつことが必要なのだと考えを改めさせられました。受け身ではなく、まずは私自身が行動を起こしていこうと思うようになりました。行動を起こし、現状や現場を見て、そこに寄り添って事業を起こしていくことが求められるのではと考えられました。

④ 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

この度は、未熟な私を採用してくださり本当に感謝しています。社会人として、採用学生としても未熟であった私がここまで到達できたのは岩手県の皆さまや支援企業の皆さまのおかげです。支援してくださった皆様のご恩を決して忘れることなく、これからも岩手で活動していきたいと思います。今までありがとうございました。

⑤ 留学費用について

総費用：72万円

(内訳 渡航費 14万円、移動費 4万円、学費 30万円、宿舍費 16万円、食費 3万円、保険料 2万円、お土産代他 3万円)

費用負担は、自己負担 0円、親からの支援 5万円、留学奨学金 72万円でした。

使ったお金の割合は現金 40%、トラベルプリペイドカード(キャッシュパスポート)が 60%ほどでした。

⑥ 語学力について

現地(イギリス・ドイツ・スイス)では、英語を使用しました。留学当初、日常会話もままならない状態で不安を抱え飛び立ちましたが、2か月の期間を経て日常会話ができるレベルにまで到達することができました。また、英会話への恐怖心が薄れ、現在は研究室に所属する留学生と英語で会話するよう心がけるようになりました。渡航以前から日常会話ができるレベルで挑んでいたなら、より様々な人と交流が図れたのではないかと思います。

「世界の被災地から学ぶ多言語・図表記」



氏 名： 山口 大河

留学先： インドネシア/アチェ州

留学期間： 2018 年 2 月、3 月(6 週間)

留学した時の学年： 1 年

学部・研究学科名： 人文社会科学部

学科・課程名・コース名： 人間文化課程

●留学テーマ

・2004 年スマトラ島沖地震により有史以来最大の津波被害を受けたインドネシアのアチェ州を訪れ、現地の大学や研究機関を中心に災害時の外国人対応に関する調査を行なった。東日本大震災発生当時、メディアではあまり取り上げられていない災害弱者がいたということを知った。特に外国人は言葉がわからず逃げ遅れたという報告もあった。そこで外国人来県者数が増えることが予想される岩手県の災害時の外国人対応について考えなければならないとの思いから留学を決意した。

●事前事後インターンシップでの取組内容及び成果

- ・事前インターンシップは岩手県庁総合防災室、NPO 法人 遠野まごころネットで行なった。東日本大震災発生から現在までの復興状況や震災発生当時の外国人対応について学んだ。釜石市・大槌町を中心として住民や専門家に外国人対応に関する不安点等を聞き私の考えた対策案を岩手県庁に提案した。
- ・帰国後の事後インターンシップは NPO 法人 遠野まごころネットで行なった。実際に外国人と被災地を周り、本県の外国人対応に関する問題点をインターンシップ受入先の担当者と話し合い、外国人向けの多言語・図表記看板の必要性を強く再確認した。また、アチェ州の子供たちが作った千羽鶴を東北の子供達に届ける活動も行なった。

●留学先での取組内容及び成果

- ・災害時の外国人対応が進んでいるアチェ州では街の至る所に避難所を示す多言語・図表記看板が設置されており、たとえ言葉がわからない外国人でも避難しやすいまちづくりが行われていた。
- ・具体的な調査方法としては、津波研究所や津波博物館を訪問し災害発生当時から現在に至るまでの外国人対応の変化についてお話を伺った。また、在住外国人や観光客に対してインタビューを行い、津波が来たらどこに避難するか、多言語・図表記看板は有効的であるかなど生の意見を聞いた。
- ・東日本大震災追悼式典にてのスピーチや教育機関で東日本大震災について説明するなど 3.11 について世界に発信する活動も行なった。また、現地で東京大学の学生との意見交換会を設け、災害に関する日本とインドネシアの類似点や相違点について話し合った。

●本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

・協賛企業・インターンシップ受入先・関わってくださった全ての皆様方に心から御礼申し上げます。
現地では健康・安全を第一に充実した研究活動を行うことができ日本には経験することのない
本当に貴重な時間を過ごすことができたと感じております。これから本県で開催される釜石ラグビー
W 杯などに向けてさらに災害時の外国人対応に注目が集まることが予想されます。この留学を
通して得た知識を岩手県の防災に還元し、継続的な活動を行いたいと考えております。

●留学費用について

①総費用：30 万円

(内訳 渡航費 10 万円、移動費 5 万、学費 5 万、食費 3 万、保険料 2 万円、通信費 1 万円、その他 4 万円)

②費用負担：自己負担 3 万円、留学奨学金 27 万円

③使ったお金の割合：現金 95%、トラベルプリペイドカード 5%

●語学力について

・現地で使用した言語：インドネシア語・アチェ語・英語・日本語

・語学レベル UP：最も使用頻度の高かったインドネシア語においては大学付属の語学学校で学び
挨拶程度の語学力から簡単な日常会話ができるようになった。

・適正レベル：日常会話に加えて自分の留学テーマに関する専門用語を理解しておく。



多言語・図表記災害看板



グランドモスク



伝統的な結婚式に参加

“被災地いわて”から“観光の街いわて”へ



岩手県立大学盛岡短期大学部 国際文化学科 2 年 中村公子

留学先：台湾 台北市

留学期間：2017 年 9 月 1 日～2018 年 2 月 18 日

(約 5 カ月半)

海外インターンシップ先:CAKEHASHI corporation

◆留学テーマ

私の留学の目的は、「台湾人を岩手へ誘致する方法を学び、首都圏に負けないほど外国人観光客で溢れる街へと活性化させること」です。岩手の魅力を全面に押し出し、外国人観光客を増やすことによって期待される効果は、岩手の消費の拡大だけではありません。その取組が必然的に外国人にやさしい街づくりへの第一歩になり、留学希望者や経験者が活躍できる場の確保にもつながります。岩手のグローバル人材が県外へ流出してしまうことを防ぐのです。そこで私は、近年における訪日観光客数トップレベルである台湾人の誘致に焦点をあてました。リピーターが多いとされる台湾人観光客の誘致にもっと力を入れることが、岩手県の活性化の第一歩につながると考え、この留学テーマを決定しました。

◆事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

事前インターンシップでは、安比高原内の五つの部署を実際に体験し、インバウンドや外国人観光客に対する取組とホテルの裏側を学びました。実際に外国人への接客を担当したり、料飲部門ではバイキング会場でお客様のご案内をしたりと、観光客へのおもてなし最前線である業務を体験しました。事後インターンシップでは、一般社団法人北上観光コンベンション協会において、北上駅観光案内所や物産館での勤務や、過去のデータからみる北上市の観光への考察レポート作成などを行いました。また、台湾のインバウンド状況や北上展勝地のさくら祭りの認知度などをシェアし、観光客増加に向けての提案なども行いました。北上市は外国人観光客の増加にあたって新しい取組なども職員一丸となって積極的に行っており、インバウンドに対しても前向きであると感じました。

◆留学先での取組内容及び成果

クライアントの facebook ファンページを実際に管理することで、どのような記事が台湾人に好まれるのかを学ぶことができました。台湾人は日本旅行慣れた人が多いので、最近では東京などの有名どころより東北などの観光が流行っているそうです。日本の観光名所と旅館を紹介する facebook ページを運営していた際に、一番反応が良かったものは雪景色や紅葉などの日本らしい風景に関する記事でした。一方で、イルミネーションやクリスマスマーケットなどの観光スポットを紹介した記事へのアクセスは月間の中で最も低かったです。台湾でもイルミネーションはあちこちで見かけます。日本より規模が大きいものもあります。やはり、日本らしさが薄いイルミネーションなどよりも、紅葉や雪景色などの日本ならではの景色のほうが台湾人からの反応は良いです。また、Web 広告の見方や特徴、ブローガーを活用した商品 PR や地方観光 PR など、様々なプロモーション方法を学ぶことができました。

◆本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

今回、トビタテ！留学 JAPAN に採用していただいたことは、自分にとって大きな自信と励みになりました。トビタテ生としてのこの一年は、「とにかく自分から行動！」をモットーに毎日を過ごしました。岩手県でこのような留学支援制度が開始したことにより、「たとえ地方でも資金がなくても誰にでも留学するチャンスはある」ということが証明されたのではないかと思います。私自身、もしこの留学支援制度が存在しなかったら、留学をする夢はおそらく叶っていませんでした。だからこそ、一人でも多くの学生にこのような素晴らしい留学支援制度があることを知ってもらいたいです。そのためにも、今後もエヴァンジェリスト活動が続けていきたいと思います。学生のうちに海外でいろいろな経験をする機会を与えてくださったトビタテ！留学ジャパンの方々や、岩手県内のたくさんの協賛企業の皆様に心から感謝しております。本当にありがとうございました。

◆留学費用について

- ・総費用：約 70 万（内訳：国内移動費 4 万、渡航費 5 万、食費 18 万、現地交通費 4 万、家賃（※光熱費込）22 万、海外保険料 6 万、その他生活費 11 万）
- ・自己負担額：なし 奨学金：70 万

現地では、現金が必要な場合にキャッシュパスポートを使用し、洋服などのまとまった金額のお買い物をするときにはクレジットカードを使用していました。

◆語学力について

渡航前はほとんど中国語を話せませんでしたが、5 か月半住んだことによって生活に使う簡単な中国語を話せるようになりました。語学学校等には通っていませんでしたが、ステイ先の台湾人のおばさんや、インターンシップ先の台湾人社員、同じインターンシップ生の日本人などに教えてもらいました。



〈職場の皆さんと〉



〈台湾にいるトビタテ生と〉

「岩手県のバイオマス資源の有効活用」

一関工業高等専門学校 物質化学工学専攻 1年 三宅孝平



留学先：ノルウェー/Ås

機関名：Norwegian University of Life Sciences

(ノルウェー生命科学大学)

留学期間：2017年8月～9月（1ヵ月間）

留学した時の学年：本科5年

学科・コース名：物質化学工学科 生物工学コース

・留学の内容

私の留学のテーマは、岩手県のバイオマス資源を環境に優しい形で有効活用するための技術を学ぶことでした。ノルウェーは森林大国であり、岩手でいうリアス式海岸のような地形であるフィヨルドがあります。そういった共通点があったため何かヒントがあるのではないかと、また今回研究対象としていたバイオマス分解促進因子についての研究が進んでいる大学があったということからノルウェーへの留学を決断しました。ノルウェーへ滞在したのは1ヵ月間でしたが、一日目から大学の研究室で研究を行いました。実際に授業を受けたりするということではなく、1ヵ月間研究に専念しました。土・日曜日は学校が休みだったので、実際にフィヨルドを見たり、オスロへ観光に行くなどしていました。

・留学の動機

実家が農業・畜産を営んでいるということもあり、普段からそれらに触れる機会が多かったです。その中で、私は化学や農学に興味を持ちました。現在所属している学科で勉強を進めていくうちに、私はバイオマス資源に興味を持ちました。バイオマス資源から我々は有用なものを得ていますが、それを得る過程は環境に優しいとは言えません。それを改善したいと思うと共に、岩手県には多くのバイオマス資源が存在していることからそれを環境に優しい形で有効活用出来たら良いと考えました。岩手県が持っている可能性をもっと広げていきたいと思いました。

・留学の成果

私はもともと英語に自信がありませんでした。日本人は他にいないので頼れる人もいませんでした。しかし、何かあった時には自分で何とかしなければなりません。そのような場面に何度も遭遇してなんとか解決していく中で、完全な英語でなくてもコミュニケーションを取ろうとすること、どうにかして伝えようとする気持ちを持つことが大切だと気付かされました。研究がメインだったので、普段耳にしない英語（専門用語）が多く、論文を読む際や話をする際に苦労しましたが、それを乗り越えて今は大きく成長出来たと感じています。

・スペシャルエピソード

休日にフィヨルドを見に行く際に、バスに乗りました。チケット等はどうすればいいのか聞いたところ、別に払わなくて良いよと言われ、無料で宿泊先とフィヨルドの地域を往復しました。

・これから留学したい人へのアドバイス

語学力、海外の生活など、色々なことに対して不安があると思います。それでも、意外と何とかできます。海外で困難なことに直面してそれを乗り越えていく中でとても成長出来たと感じています。不安があることに挑戦することは成長出来る機会なのだと思います。

・留学費用について

①総費用：45 万円

(内訳 渡航費 18 万円、現地移動費 2 万円、国内移動費 3 万円、宿泊費 6 万円、食費 4 万円、保険料 1 万円、生活費(日用品など) 1 万円、準備費(キャリーケース、ノルウェーへのお土産など) 10 万円)

②費用負担 自己負担 4 万円、トビタテ奨学金 41 万円

③使ったお金の割合：現金 10%、クレジットカード (VISA) 90%

・留学先宿舎について

ホームステイ (間借り)、1 ヶ月 6 万円

・語学力について

・現地で使用した言語：英語 (現地の人の会話はほとんどがノルウェー語でしたが、英語も話せました)

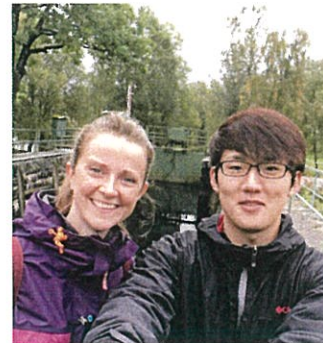
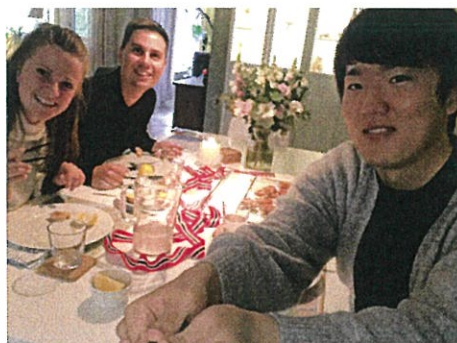
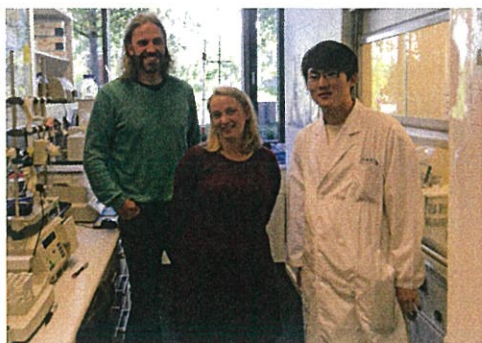
・語学レベル UP：留学前と比べるとコミュニケーション能力が上がったと思います。実際に TOEIC 等を受けて確認する予定です。

・ネット環境及びその他の参考情報

ネット環境に関しては、Wi-Fi をレンタルしなかったのが大変な思いをしました。街中で Wi-Fi を使用できる場所は少なかったです。宿泊先、大学では自由に Wi-Fi を使用できました。使ったお金の割合に関してですが、生活していて現金が必要な場面は一つもありませんでした。有料のトイレでもクレジットカードで支払いが出来ます。

・留学中の主なスケジュール

月～金曜日までは毎日大学の研究室で研究を行ない、土・日曜日は観光などに出かけていました。



「ふるさと発見！大交流会 in Iwate」への協議会ブースの出展

岩手に定着し活躍する若者を増やすことを目的に、県内大学や経済団体が連携し実施した「ふるさと発見！大交流会 in Iwate」に岩手大学と連携し協議会ブースを出展。

海外派遣を終えた学生から留学生支援事業の紹介や自己の留学体験を来場者に広くPRした。

【イベントの概要】

- ア 主 催 ふるさと発見！大交流会 in Iwate 実行委員会（岩手大学 COC 推進室内）
- イ 開催日 平成 29 年 11 月 19 日（日）
- ウ 会 場 岩手大学第一体育館
- エ 出展団体数 173 団体
- オ 来場者数 1,946 人



企業ブース



来場者に説明する派遣学生